

厚生労働省指針13物質  
文部科学省基準6物質

非配合

環境配慮型

F★★★★

水性架橋型 透湿・高浸透型エポキシ変性カチオン系1液水性プライマー

# カチオン浸透エポプライマー

## ◆ 特長

- 1.浸透性** 脆弱下地や緻密な下地に、優れた浸透力を発揮します。
- 2.密着性** 内・外装・防水・床・屋根用プライマーとして各種建材、旧塗膜に対して優れた密着性を発揮します。コンクリート、モルタル仕上げのバルコニー面等へのフロン無機防水のプライマーや、水性フロアー等のプライマーとして幅広く使用できます。
- 3.水性** 下地(旧塗膜)を侵すことはありません。安心して改修塗装ができます。また、水性なので火気の心配がなく、管理が容易で安全です。

## ◆ 容量・荷姿・使用量・塗装面積

容量・荷姿	標準使用量 (kg/m <sup>2</sup> ・回)	標準塗装面積 (m <sup>2</sup> /缶)
15kg 石油缶	0.1~0.15	1回塗りで100~150
4kg ポリ缶		1回塗りで 26~40

## ◆ 乾燥時間

5~10℃	6時間以上
10~20℃	4時間以上
20~35℃	2時間以上
35℃以上	1時間以上

## ◆ 用途

新設および改修(内・外装、屋上、床面等)

### 新設/適正下地

- ケイ酸カルシウム板
- スレート板
- コンクリート、モルタル
- PCa板
- 押出し成型板
- ALC板
- セメント瓦
- コロニアル
- モニエル瓦
- 波形スレート
- アスファルトシングル

### 改修/適正旧塗膜

- エマルション塗料
- アクリル樹脂塗料
- 塩化ビニル樹脂塗料
- アクリルウレタン樹脂塗料
- リシン、スタッコ※
- 複層弾性、単層弾性
- 吹付タイル

※弾性スタッコへの塗装は避けて下さい。

## ◆ 上塗適正

### 内・外装

- アクアレスメル類
- フロンプロテクトコート
- ウレタントップ水性
- シリコントップII
- 遮熱シリコントップII
- 断熱コートEX
- 断熱コート
- セイフティファイラー

### 防水(コンクリート・モルタル面)※

- フロン無機防水

※ウレタン塗膜防水材への使用は、塗膜フレの原因となりますので避けて下さい。

### 床(コンクリート・モルタル面)

- 水性フロアー
- フロンアクアストリート
- フロンアクアファースト遮熱
- フロンアクアファースト

### 屋根

- ツインコートアクアHB
- シリコンクール
- シリコン水性カワラ
- HNTシリコンルーフ

※上記記載の代表的な素材においては、十分に密着性の確認を行っていますが、メーカー、種類によっては密着性の安定しない場合があります。その他の新素材および特殊素材など確認のとれない素材もありますので、充分テストの上ご使用下さい。

## ◆ 標準工法

工程	材 料 名	標準使用量 (kg/m <sup>2</sup> ・回)	希釈率 (%)	塗 装 方 法	塗回数	上塗可能時間 (23℃)
下地調整	新設の場合： ●コンクリート、モルタル面はpH9.5、含水率5%以下になるように夏期3週間以上、冬期4週間以上養生し十分に乾燥させる。 ●下地は十分に乾燥させる。 改修の場合： ●下地のゴミ、ホコリ等はブラシ、ウエス等で除去し、必要に応じて不陸、ジョイント部、巣穴などは下地処理材で処理する。 ●下地の密着不良部、脆弱、風化箇所、表面の油、ゴミ、ホコリ、コケ等は、高圧水洗 (14.7～19.6MPa)、サンダー、ワイヤーブラシ等で除去し、下地は十分に乾燥させる。 ●条件に適した下地処理材を使用して処理する。					
下塗り	カチオン浸透エポプライマー	0.1～0.15	無希釈	中毛ローラー、ハケ、エアレス	1～2回	2時間以上
上塗り	各種水性上塗塗料 複層弾性 単層弾性 フローン無機防水 屋根用弱溶剤系塗料	個別カタログを参照				

※ケイ酸カルシウム板、ALC板等、下地の吸い込みが激しい場合は、2回以上塗布して下さい。

使用量は下地の状況、形状によって増減する可能性があります。

## ◆ 施工上の注意事項

- よくかき混ぜて均一な状態にしてから使用して下さい。また、無希釈タイプですので希釈はしないで下さい。
- 気温及び躯体温度5℃以下、湿度80%以上あるいは結露している条件下での施工は密着不良、ひび割れなどの原因となりますので避けて下さい。
- 塗装後翌日まで降雨、降雪等の心配がある場合は、施工を避けて下さい。
- 冬期の施工は夜露、結露の発生が考えられますので、午後3時以降の作業は避けて下さい。
- 夜露、高湿度等で被塗物が結露している場合は、ウエス等で拭き取り、乾燥させてから塗装して下さい。
- 上塗りに溶剤系塗料は使用できません。
- カチオン系塗料ですので他の塗料との混合はできません。
- 中毛ローラー、ハケなどの施工具は、他の塗料との共用を避け、使用後は十分に水洗いを行って下さい。
- 他の容器に移す場合はプラスチック容器を使用して下さい。金属容器を使用すると錆が発生する可能性があります。
- 金属部への塗装は行わないで下さい。また、被塗面のまわりに金属部材がある場合は、塗料が付着しないように養生を行って下さい。
- 動植物に影響を及ぼす可能性がありますので、施工時及び施工後の換気を充分に行って下さい。
- 塗料、塗料容器、塗装具を廃棄するときは、産業廃棄物として処理して下さい。
- 塗料、塗装具などを洗浄した廃液は、そのまま地面や排水溝に流すと環境に悪影響を及ぼす恐れがありますので、廃棄物の処理及び清掃に関する法律及び関連する法規に従って処理を行うか、許可を受けた産業廃棄物業者に委託して処理して下さい。

### ご注意



取り扱い上の注意については、容器に表示された注意事項をご参照下さい。  
 詳細内容が必要な場合には、安全データシート (SDS) をご参照下さい。  
 SDSは弊社HPにて閲覧・ダウンロードしていただけます。トップページから製品情報のページにアクセスし、各種SDS一覧をご参照下さい。

●お問い合わせは……

## 東日本塗料株式会社



本 社/〒124-0006 東京都葛飾区堀切3-25-18 TEL.03(3693)0851(代) FAX.03(3697)2306  
 埼玉工場/〒347-0017 埼玉県加須市南篠崎1-13 TEL.0480(65)1515(代) FAX.0480(65)1518  
 仙台営業所/〒983-0045 仙台市宮城野区宮城野1-4-20 TEL.022(291)7372(代) FAX.022(291)7320  
 新潟営業所/〒950-0871 新潟市東区山木戸3-7-9 TEL.025(273)5749(代) FAX.025(274)6730  
 静岡営業所/〒422-8037 静岡市駿河区下島128-1 TEL.054(238)8061(代) FAX.054(238)8063



※製品改良のため、予告なく仕様、性能、カタログ内容を変更する場合があります。  
 ※諸官公庁等の特記仕様がある場合には、それを最優先して下さい。

URL <https://www.hnt-net.co.jp> CATALOG NO.16 '23.04.5000